

令和5年度 目黒日本大学幼稚園 自己評価票

〔本園の目指す幼稚園像〕

本園は児童楽園として開園以来、子どもたちの自発的活動に重きをおく自発主義を理想としてきた。本園の第一義的役割は、子どもたちが人格形成の基盤となる幼児期に、一人ひとりの持つ個性を伸ばしながら、目まぐるしく変動する社会の変化に適応できるよう、様々な知識を深めつつ、心豊かにバランスの取れた育ちへと導くことである。

〔本園の特長〕

- ・ 様々な体験活動を通して豊かな感性を育む。
- ・ 人や物、環境に関わりながら好きな遊びに取り組み、質の高い幼児教育を心掛ける。

〔本園の課題〕

- ・ 一人ひとりの発達と育ちの現状を捉えた上で、その学年だけでなく、今後の成長を考えたカリキュラムや保育の環境を整える。また、それに対応できる保育力を高めていくことに努める。
- ・ 少子化に伴い地域の未就園児数が減少する中、本園では教育内容を見直し、預かり保育や課外教室などの改革を進め新入園児の減少を抑えるようにする。

令和5年度の取組結果

〔概況〕

新型コロナウイルス感染症の法的位置づけが第5類へ移行したことで、衛生管理を行いながらも、マスク着用やアルコールでの手指消毒を各家庭の判断とし、行事等は元の形で行えるものはできる限り戻しつつ、時代の流れの変化に合わせて変えるようにしていった。

子どもたちの興味関心があることに対し、環境を整えたり、保育者が知識を増やしたりし、より深い遊びや学びができるようにした。令和6年度から本格的に掲げる「デジタル教育」に先駆け、AI ロボットを導入し、始めは自由遊びでの触れ合いから行い、学年が上がるごとに専用アプリの見方を伝えながら、ロボットへ興味関心が持てるように取り組んでいった。

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
保育の計画性	子どもが興味関心を持っていることや成長の姿を常に保育者間で話し合い把握し、今後の成長に必要な指導や、意欲を伸ばせるような活動を考え、月案、週案等の指導計画を立てていった。また、子どもの興味が高い内容については、保育者自身が研究をしたり、準備を行ったりして取り組んできた。	A
保育の在り方 幼児への対応	実際の子どもの成長段階や心の面に応じた環境設定や保育内容、言葉掛け等を考えて保育に臨んだ。受け持ちのクラスに限らず、保育者間での協力体制を取り、同学年の子どもの姿を把握するように努めたことで、子どもも様々な保育者と関わり、トラブルや心配事の際にも話し易い空気感を作ることができた。 しかし、時折保育者の子どもに対する成長への願いが強くなってしまいう事で、その時の子どもの姿に寄り添った声掛けができていない場面もあったため、保育者同士で相談し合いフォローできる環境にしていく必要がある。	B
保育者としての資質 や能力・良識・適正	都度学年毎の反省会を行い、各クラスの活動報告と改善点について様々な意見を出し合った。 今年度から導入したAI ロボットを使用し、学年のレベルに応じた子どもへの降ろし方を相談し、保育者が興味を持って知識を得ることで、子どもたちにと	A

	っても、興味を惹かれるような活動を展開していくようにした。	
保護者への対応	<p>怪我やトラブルだけでなく、成長した部分や楽しんでいた様子など、なるべく保護者と顔を合わせた際や別件で連絡をした際には伝え、園での様子が分かるように心掛けた。また、特にバス通園で顔を合わせる機会が少ない保護者へは、意識的に時間を見つけ園児の様子を伝えた。その際挨拶や言葉遣い、立ち振る舞いなど基本的な部分を丁寧にを行うように気を付けた。</p> <p>保護者の多様な価値観を受け止め、表情や話している様子をよく観察し、心配している内容や気にかかっている部分について汲み取れるよう心掛けたが、保護者の求める対応に届かない場面もあった。引き続き、安心感のあるコミュニケーションを取れるように努めていく必要がある。</p>	B
家庭支援	<p>今年度も長期休暇中の預かり保育の実施を行い、保護者の支援に努めるだけでなく、園生活のリズムを崩さないような活動を取り入れるようにした。</p> <p>長時間や毎日参加する子どももいるため、新鮮な気持ちで過ごせるような活動内容を随時検討し、臨機応変に対応していくようにしたい。</p> <p>課外教室に今年度からECCによる「英語」を導入、また1年間の特別プログラムとして「アトリエ」を取り入れ、共働き世帯でも幼稚園に預けている間に様々な習い事も経験できよう選択肢を増やした。「アトリエ」については好評のため次年度も継続して行うことが決まっているが、その他の課外教室についても、昨今の需要を鑑みた内容を検討していく必要がある。</p>	A
地域の自然や社会とのかかわり	<p>年中組・年長組の芋ほりや、年少の散歩で泊江園芸の方や目黒不動尊のご住職と交流をさせていただいた。また田道小学校の校庭にて運動会を実施させていただいたり、学年毎に遠足で動物園や水族館、科学館へ行ったりと、外部の方と関わる機会が持てた。園外へ出る機会が少ないため、外でのマナーなどは、よりしっかりと伝えていく必要があると感じた。</p>	B
保健衛生	<p>新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことで、マスク着用や登園時の手指アルコール消毒は各家庭の判断とした。昼食時のクリアパーテーションも廃止をしたが、養護教諭による手洗い指導で、手洗いの必要性や咳エチケットを子どもたちに伝えた。定期的に玩具の消毒は引き続き行い、保育者も換気等気を付けて行ったことで、園全体での感染症の流行は見られなかった。</p>	A
広報	<p>1～2週に1回、クラス活動の様子をブログに掲載したことで、保護者にとっては保育の様子を知る機会となった。在園児以外に、本園に興味を持ってホームページを見てくださる方にとっては幼稚園のPRを兼ねることができた。</p> <p>次年度の入園希望者に対して告知のポスターを商店街にもご協力いただいた。見学会は前年度より多く行い、保育内容や園児の過ごし方を実際に見ていただくことができた。また説明会の回数を当初より増やしたことで、都合がつかなかった方も参加することができた。来年度より本格的に導入するデジタル教育についてねらいや内容についてはホームページに保育内容を掲載し、説明会では動画を交えた説明を行った。</p> <p>既に本園を知っている方に対しては十分だが、新しく知ってもらうためにはまだ不十分と思われ、広報の行い方を大きく見直す必要を感じた。</p>	B
管理運営	<p>行事毎に係を分担し、内容の検討や準備物の手配、必要に応じて発注など行い、職員全体への打合せを通して情報共有・運営を行った。</p> <p>防災訓練について定期的に係が会議を行い実施方法の検討、職員全体への情報共有を行い月一回実施した。その都度反省点を挙げ、災害時の円滑な避難マニュアルの策定、改善を行った。</p>	A
教育活動 英語	<p>本学園のネイティブの英語講師による英語の時間を5歳児クラスで年14回実施した。英語に親しみを持てるよう、歌やダンス、ゲーム等を行った。英会話レッスンを受けているというよりは、日常の保育を英語で行っている感覚に近いため、抵抗感なく参加できていた。前年度までは椅子を使用せずに行う活動が多かったが、今年度から活動内容に応じて机や椅子を出すようにしたところ、メリハリをつけて活動できるようになった。終了後にも教わった歌を口ずさんでおり、自然と英語を受け入れている様子が見られた。</p>	A

教育活動 体操教室	カワイ体操教室の講師の指導のもと、運動機能向上や、集中力を養うため課内で体操の時間を設けた。5歳児クラスは年間21回、4歳児クラスは年間10回、園庭または遊戯室にて、かけっこを始め、器械体操運動（マット、鉄棒、とび箱）や道具を使った運動（ボール、縄跳び）を行った。 運動遊びを通じて、身体を動かす楽しさを知ることだけでなく、挨拶の大切さや、相手のことを考えながら動くことを学べ、体操教室の取り組みが、普段の保育活動にも良い影響を与えた。また、最初は運動に苦手意識があった子も、徐々に自信を高めることができた。	A
教育活動 リトミック	今年度から3歳児クラスはカワイ音楽教室の講師の指導のもとリトミックを課内に取り入れた。カスタネットや鈴など身近な楽器でのリズム遊びや、音に合わせた表現遊びを行い、リズム感や表現力だけでなく、集中力や協調性を高めていった。担任以外の講師と行う時間は特別感があり、子どもたちにとっても意欲的に参加できる内容であった。	A
教育活動 野菜の苗植え	野菜の育ちを知り、食べ物を大切にすることを育てるため、今年度も園舎2階のテラスにプランターを置き、野菜の栽培をした。園児一人ひとりが苗を植え、毎朝欠かさずに水やりをし、生長を喜び、小さな実が付いていることを発見すると教え合い、喜ぶ様子があった。みんなで育てる野菜ということもあり、苦手な野菜であっても献身的に育て、家に持ち帰った際には食べることに挑戦していた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

令和5年度 学校関係者評価結果

評価項目	評 価
保育の計画性	全ての先生が熱心に保育に取り組んでおり、信頼できる良い幼稚園だと思う。行事やイベントは子どもの興味や成長に合わせており、先生方が子ども一人ひとりに合ったサポートをしている。保育参観では、しっかりとした指導計画を感じる。園だよりやブログで子どもたちの活動を知ることができ、年齢に応じた準備や工夫が感じられる。毎月の目標設定などを通して、子どもの成長が見られ、先生方の熱心な指導に感謝している。季節の行事など日本文化に触れることは素晴らしいことだが、その行事を何故行うか、しっかり理解できる学びの時間が持てるとう良い。
保育の在り方 幼児への対応	どの先生も子どもたちの名前を覚えていて、寄り添った声かけをしてくれるのが良い。担任以外の先生も子どもの状況を理解しており、保育者同士の連携が上手く取れている。朝の登園時やお絵かき、お弁当の時間などでも、子どものペースに合わせた温かい指導が行われており、とても感謝している。年中・年長クラスでは、以前担任だった先生や預かり保育の先生がサポートしてくれるため、子どもたちが声をかけやすい環境が整っている。友だち間のトラブルにも丁寧に対応してくれ、子どもも安心して登園している。以前に比べ人手が少ないと感じることもあるが、先生方の丁寧な対応に満足している。
保育者としての資質 や能力・良識・適正	先生方は適切な声かけをし、温かい雰囲気子ども心の成長を支えている。多くの先生が命令や指示ではなく、前向きな言葉かけをしてくれ、この幼稚園に通わせて良かったと感じている。クラスや学年を超えて子どもたちを見守ってくれる先生方に感謝している。各学年の年間目標に向けたクラス活動の進行具合や問題点の確認について、保護者への共有があれば嬉しい。産休に入った先生の後任や他の先生へのフォローが不足していると感じた。 子どもがAIロボットについての話をする姿を見て、将来に対応したデジタル教育の一端だと感じた。AIの成果について実感が無いため、具体的な活動内容等を知りたい。
保護者への対応	先生方が些細なことでも子どもの様子を直接または電話で報告してくれ、大変信頼している。保護者として、様々な価値観を持つ他の保護者たちの意見や感情を理解するのは難しいことだが、そうした配慮をいただけることに感謝している。保護者面談や幼稚園での出来事で、子どもの様子を丁寧に聞いてもらえることに安心感を覚える。先生方の笑顔や声掛けは、保護者にとっても学ぶべきことばかりだと感じた。些細な怪我やトラブルにも、保護者以上に気を使ってくれる。

地域の自然や社会とのかかわり	園外での貴重な体験機会が少ない一方で、外でのマナーを学ぶことはありがたいと感じている。年少・年中児は手がかかる年齢ではあるが、年長になると外部イベントが増えることを考えると、イベントをもう少し分散してもらえると嬉しい。先生や親以外の大人との関わりが成長に重要であると再認識した。幼稚園外での活動を通じて、子どもたちの好奇心を育むことができ感謝している。このような機会が増えることで、子供たちが礼儀やマナーを学ぶ機会も増えることを期待している。
保健衛生	幼稚園はいつも清潔で、手洗い指導も含めて衛生管理が行き届いていると感じている。感染症対策では先生方が見えないところで玩具の消毒などを行ってくれていることに大変感謝している。養護教諭の先生の手洗い指導も効果的で、自宅でもその習慣が身についてきた。園からの情報提供も早く、流行している感染症についても注意喚起がなされ、健康管理に役立っている。幼稚園の清掃や衛生管理に対する意識の高さから、安心して子供を預けられると感じている。
教育活動 体操教室	子どもは体操教室の日をととても楽しみにしていた。体操教室で自信をつけ、家庭でも習ったことを実践し、子どもが成長しているのを感じた。専門の先生が指導してくれる点や、通常保育の中に取り入れてもらえたことも大変ありがたかった。体操教室を通じて、ルールや規律を学ぶ良い機会となったと思う。保護者が見学できる機会を設けてほしい。
教育活動 リトミック	子どもはリトミックの日が待ち遠しかたようで、毎回充実した表情でその体験を話してくれた。また、音楽やリズムを通じてコミュニケーションが取れることが楽しく、特別な時間と感じているようだった。家庭ではあまり経験する機会の少ないリズム遊びや友だちと一緒に楽しむことが、子どもにとって幼少期の重要な体験になっていると感じる。一緒に音楽を楽しみながら、集団での協力や自己表現の大切さを学び、成長してほしいと願っている。年中や年長にも、ぜひリトミックを通じてこの貴重な経験を提供してほしい。
教育活動 野菜の苗植え	子どもが野菜の生長や水やりの楽しさを楽しそうに話してくれたり、描いた絵を見せてくれたりした。都会で野菜を見る機会が少ない中、自分で育てる野菜を選んで種を植え、野菜の生長を間近で見ることができ、貴重な学びや経験となった。毎日のお世話を通じて、野菜の生長を観察することで、食べ物に対する感謝の気持ちや責任感も育まれた。年長だけでなく他の学年にも広げてほしい。

令和6年度の改善取組項目及び方策

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
保育の計画性	定期的な会議を行い、学年毎に実際の子どもの状況を把握し、短期的、中期的、長期的の目標を考えて指導計画を立てる。その上で、保育者の今までの経験を活かし、必要に応じて学びを深め、他学年にも共有する。	月案・週案 職員会議
保育の在り方 幼児への対応	園児の成長を考え、安全安心に過ごせる関わり方を常に意識して関わる。クラス毎の園児の様子を共有し合い、どの保育者でも対応ができるようにする。	学年会議 職員会議 主任会議
保育者としての資質 や能力・良識・適正	保育者として悩む内容を議題として園内で話し合い、様々な意見から対応方法を見出す。 外部研修を通して、他園での取り組み方法を知ったり、専門家の話を聞いたりしながら、向上心を持ち、子どもたちの最善な利益を考えた保育を心掛ける。 デジタル教育が本格的にスタートするにあたり、保育者自らが興味を持ち、知識を深めていくことに努める。	園内研修 目黒区の研修会 外部の研修
保護者への対応	情報統一や情報共有を徹底する。 保護者の言動について、きちんとした読み取りが出来るようにし、誤解が生じないよう丁寧に伝える。	朝会 報告
家庭支援	通常時、長期休暇中の預かり保育では、保護者のニーズを把握し応えるよう努める。今年度18時を過ぎてしまう家庭が度々	主任会議

	<p>いたので、次年度から18時30分までの延長を行う。</p> <p>課外教室の需要を考え、見直しを図る。また、預かり保育から課外教室へ行くシステムが分かりづらい部分もあるため、明確にするため「園のしおり」等の改定を行う。</p>	
地域の自然や社会とのかかわり	<p>外部の方との交流を経験することで、子どもたちが心豊かに過ごせるよう、地域との連携をはかる。現在目黒不動尊のみ、5歳児はさつまいもの苗植え、観察、収穫の3回、3歳児は冬に散歩として1回訪問させていただいているが、4歳児にも散歩の機会を設けたり、現在訪問している学年も行く回数を増やしたりとできるよう相談していきたい。</p>	年間行事に準ずる
保健衛生	<p>養護教諭からの指導やアドバイスを聞き、子どもの健康面や感染対策について改善する。</p>	保健計画予定に準ずる
広報	<p>ホームページやブログなどの発信力の強化や見やすさなどの改善を行う。</p> <p>次年度から本格的にスタートする教育内容を分かりやすくホームページや説明会等で伝え、本園に興味を持っていただく。既に本園を知っている方以外への発信の仕方（SNS等）も検討し、入り口を広められるようにする。</p>	配信時の確認 主任会議
管理運営	<p>委員会や係など役割を決め、定期的な会議や記録会、情報共有を含め話し合いを行う。</p>	委員会・係等会議
新規取り組み	<p>デジタル教育の本格スタート。初年度は、AIロボットを使用した活動を行いながら、今後のカリキュラムの流れに合わせ、子どもたちの興味を引き出せるような活動を計画。</p>	学年会議 職員会議 主任会議

以上